

# 福島縣に於ける道路愛護の表彰

## 福島縣土木課

去る紀元節の佳節をトして第四回の道路愛護の表彰式を舉行した。當日は社會教育其他各般の事業功勞者も同時に表彰されたのである。本縣の道路愛護は昭和五年四月に道路愛護獎勵規程が公布せられてから始まつたもので毎年五月一日を道路愛護デーとなし此日には愛護會を組織して居る團體は勿論其他一般の部落に於ても愛護作業を勵行する事にして居る。道路愛護の會期は一月一日より十二月三十一日に至る滿一ケ年を以て此れに當ててるが故に各愛護會に於て最も都合の好い時日に作業をなし此れ等は凡て所轄土木出張所に報告し監督を受ける事にしてある。

本年に於ける愛護會の申込數は三九五團體其の内作業せる團體數は二二六であつた。團體には町村民を一體とせる

もの一部落よりなるもの或は消防組、在郷軍人會、青年團、女子青年團或は少年赤十字團等に至る迄で其種類は多種多様である。其の内成績最も優秀なる六十四團體に對して二等賞より五等賞迄で夫々表彰したのである。昭和五年以來四ケ年間に表彰團體數は累計五二七の多數に及んで居る。

本年は匡救事業の關係もあり幾分衰微するのではないかと懸念があつたけれ共獎勵に努力した結果返つて作業延人員（延人員は通計八時間作業を以て一人に換算）は前年よりも著しく増加して其數實に十四萬七千六百人に達して居るのである。此等は農村匡救道路工事に就役の結果精神的並作業の熟練と云ふ點に於て昨年よりは成績良好であつたと思ふ。作業延人員は昭和五年以來の累計實に三十一萬

七千人以上に及んで居る。

叙上の如く道路愛護會のみならず道路勞功者として昭和五年以來二名を表彰して居る。

此等陰徳の士を等閑にせず其功績を賞揚する事は現今の如き社會情勢には特に必要であると思ふ。此地の他に當日には道路工夫の作業成績の特に優良なる者を選び賞品を授與した。其の數は昭和五年以來三十人に達して居る。道路工夫の表彰は工夫全員に對し精神的に多大の刺戟を與へ其の作業成績は全く一變し愛護會の活動と相俟つて今日の如き平滑なる路面の状態を維持するに致つたのである。國府縣道の維持監理は特に社會民衆各自の精神的向上と援助とにより共同戰線を敷いて此れに當るに非ざれば萬全を期し難いと確信するものである。

回顧するに太政官布告には庶民は道掃除をなすべしとあつたので春秋には必ず勵行して居たのであるが道路法制定以來道路愛護の觀念は更に薄らぎ縣道は府縣廳に於て凡て處理すべきものなりといふ誤れる觀念が一般の腦裡に深く

刻まれ縣道上の些少なる障害物をも取去る事をせざりしのみならず道路を物置き同様に使用し又は作業場の如く考へ、ために縣道の状態は容易に改善せられなかつたのである。一方道路修繕費は年毎に減額せられ此れに反して交通は年毎に増加するを以て路面の維持のためにも適當なる方法を考案するの必要に迫られたのである。

愛護獎勵規程公布以來愛護作業を獎勵すると共に愛護精神の作興に努力したる結果滿四ヶ年後の今日は舊年の状態を全く脱し我が村内の道路は凡て我等の道路といふ觀念に立ち致らしめたのである。